

# 平成10年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成11年1月18日  
高知県病害虫防除所

## 病害虫名 黄化萎縮病



### 1. 発生作物 トマト

### 2. 病原

1. 病原名:タバコ巻葉ウイルス(Tabacco leaf curl virus: TLCV) ジェミニウイルス科)
2. ウイルスの形態:径15~20nmのほぼ球状粒子が2個つながった形
3. 感染植物:ナス科, スイカズラなど

### 3. 特殊報の内容 トマトでの本県初発生を確認

### 4. 初発生が確認された時期 平成10年7月

### 5. 発生場所 越知町, 吾川村

### 6. 発生確認の経緯と発生状況

1. 平成10年7月, 施設栽培(雨よけ)のトマトで頂葉の黄化, 萎縮及び巻葉, わき芽の萎縮などの症状をおこす株が発生した。
2. 農業技術センターへ診断の依頼があり, 黄化萎縮病と考えられたため, 農林水産省九州農業試験場へ送付したところ, 黄化萎縮病(病原ウイルスTLCV)と診断された。
3. これまでに越知町で5ほ場(60a), 吾川村で2ほ場(40a)での発生が確認された。
4. なお, 県外では平成8年に長崎県と愛知県でジェミニウイルス科のTomato yellow leaf curl virus(TYLCV)によるトマト黄化葉巻病, 静岡県でジェミニウイルス科のTYLCVまたはその近縁のウイルスによるトマト黄化萎縮症が確認されている。

### 7. 病徴

頂葉が黄化し, 葉が下の方に巻く。その後葉脈間の黄化, 縮葉などの症状を示し, さらにすすむ

と葉はちりめん状となり、節間が短縮して萎縮症状を示す。生育初期に感染すると、叢生症状となり、著しい生育不良になる。発病前に着果した果実は正常に発育するが、発病後の花は結実しないことが多い。

## 8. 伝搬方法

タバココナジラミとスイカズラコナジラミによって媒介される。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、アブラムシ伝染はしない。タバココナジラミは30分以上病株を吸汁すると4～9時間の潜伏期間を経て伝搬能力を持つようになり、以後10日以上伝搬能力を保持している。経卵伝染はしない。スイカズラが伝染源として重要である。

## 9. 防除対策

1. 伝染源のスイカズラを除去する。
2. 発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋めるか焼却する。ほ場周辺に絶対に捨てない。
3. 媒介虫のタバココナジラミのほ場への侵入を寒冷紗などで防ぐ。
4. タバココナジラミはマメ科、キク科、ナス科、ウリ科など多くの植物に寄生するので、ほ場周辺の雑草を除去する。
5. タバココナジラミを防除する。収穫後の残さの処理を徹底する。